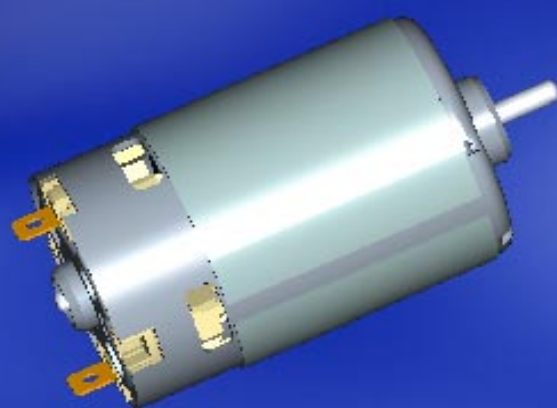


環境報告書

2001



マフ子モーター株式会社

目次

ごあいさつ	2
経営理念と環境基本方針	3
環境マネジメントシステム	5
環境配慮型製品・工程への取り組み	7
グリーン調達	9
化学物質管理	10
省エネルギー・省資源の取り組み	11
リサイクル・廃棄物減量化	13
汚染防止	15
環境教育・訓練	17
コミュニケーション	19
社会貢献・地域活動	20
環境データ	21

環境報告書2001の対象範囲

対象年度	2000年度 (2000.1.1 ~ 2000.12.31)
記載範囲	マブチグループの本社及び 海外関連会社
活動対象範囲	モーターの製造、販売・ サービスの提供に関わる環 境活動の内容

備考

- a. 当報告書にて「海外関連会社」とは以下の海外生産拠点を指します。
- 香港マブチ (広東マブチ含)
 - 台湾マブチ
 - 高雄マブチ
 - 大連マブチ (瓦房店マブチ含)
 - マレーシアマブチ
 - 江蘇マブチ
 - ベトナムマブチ
- b. 当報告書にて「マブチグループ」とは「本社」に上記「海外関連会社」を加えた総称です。

会社概要



マブチモーター株式会社本社

商号	マブチモーター株式会社 MABUCHI MOTOR CO., LTD.
創立年月	昭和29年1月18日
事業内容	小型モーターの製造・販売
資本金	20,704百万円
従業員数	(本社) 978名 (グループ) 約61,000名
連結売上高	116,233百万円(2000年実績)
代表者	代表取締役社長 馬淵 隆一
所在地	〒270-2280 千葉県松戸市松飛台430 TEL: 047-384-1111 (代表)
技術センター	〒270-2393 千葉県印旛郡本埜村竜腹寺 280番地



マブチモーターの製品群

ごあいさつ

地球環境の保全が人類の大きな課題になっています。企業は製品を生産する過程やサービスを提供するかたわらで、多くの環境負荷を発生させています。社会に役立つ商品を提供するためとはいえ、多くの環境負荷を排出してよいということは決してありません。環境負荷を最小限に止め、消費者の皆様には有益な商品を提供するのが企業に課せられた課題であるといえます。

当社はこのような視点に立ち、「地球環境と人々の健康を犠牲にすることのない企業活動を行う」を経営機軸とし、環境保全を重要な経営課題と受け止め、企業活動を行っています。

当社が生産する小型モーターは自動車電装機器、音響・映像機器、家電機器、OA機器、電動工具、玩具等、幅広い製品に組み込まれ、世界中で使用されています。年産18億個の小型モーターに含まれる化学物質の無害化や、生産時に使用する化学物質の無害化、またモーターの消費電流を抑えることによる電池使用量の極小化など、使用中及び廃棄後も環境負荷が少ない製品の開発、製造に取り組んでおります。また、1999年から2001年にかけて、本社及び海外関連会社7社の全てにおいて環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001の認証を取得しました。今後はこの継続的改善に努めて行く所存です。

これらの当社の環境負荷低減に向けた取り組みを、多くの皆様に知っていただきご意見を頂くことは、当社の環境保全活動を継続的に改善する上で非常に重要と考えており、この報告書を作成いたしました。マブチモーターグループの環境保全への取り組みについて、ご理解を深めていただけることを願っております。



2001年11月
代表取締役社長
馬淵 隆一

経営理念と環境基本方針

経営理念

国際社会への貢献とその継続的拡大

環境基本方針

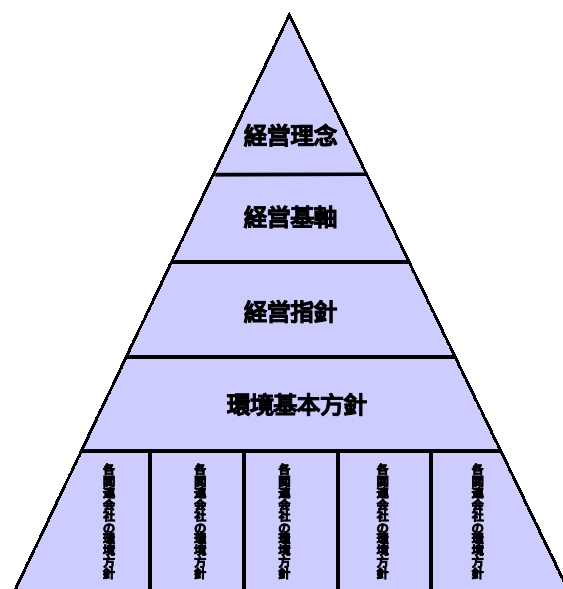
1. 地球環境に配慮した企業活動を行うための環境マネジメントシステムを確立し、継続的改善に努める。
2. 環境関連の法規制およびその他の要求事項を遵守するとともに、積極的に自主基準を設定し管理する。
3. 限りある資源を最大限有効に活用するために、省エネルギー、リサイクルおよび廃棄物の減量化に積極的に取り組む。
4. 環境に負荷を与える物質は可能な限り代替物質への転換を行う。
5. 従業員の環境に対する意識の高揚を図るため、積極的な教育・広報活動を行う。
6. 環境方針は全従業員に周知するとともに、必要に応じて外部の利害関係者にも開示する。

環境基本方針は、経営理念を具現化したもので、マブチグループ全体に浸透しています。

「環境基本方針」はマブチモーターの経営理念である「国際社会への貢献とその継続的拡大」と、経営基軸「地球環境と人々の健康を犠牲にすることのない企業活動を行う」という項目を基本に作成したもので、環境問題に関するマブチグループの基本的な考え方を表したものです。

グループ内の各関連会社はこの環境基本方針を基に、所在国、地域の法規制を遵守し、継続的改善及び汚染の予防を約束し、各社ごとの「環境方針」を制定します。

環境管理統括責任者が各関連会社の環境方針の制定や改訂に対する監督/承認を行います。このようなプロセスで「マブチ環境基本方針」の真髄をグループの隅々まで浸透させていきます。



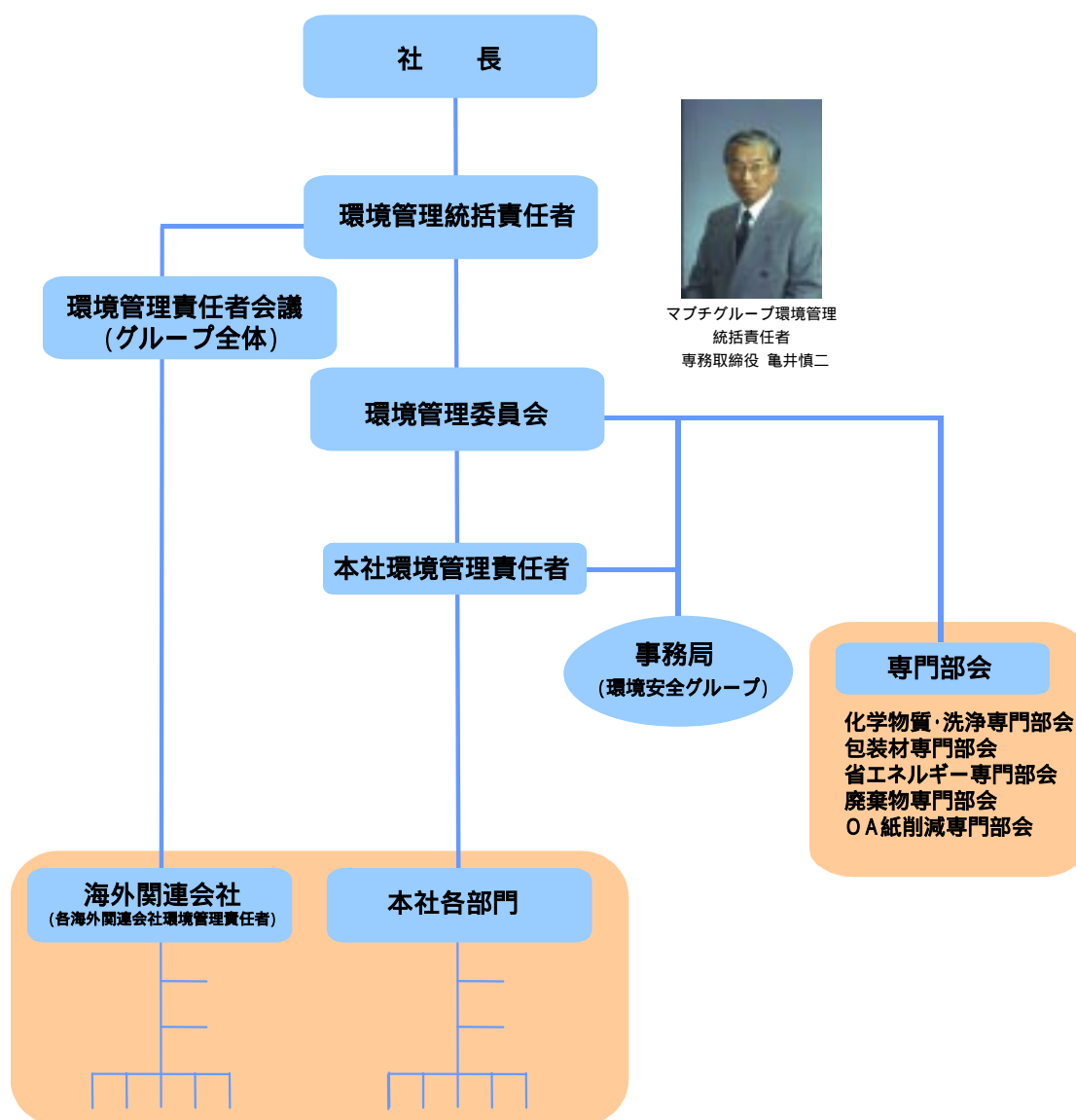
大連マブチが発行した環境カードにはマブチグループの環境基本方針と大連マブチ環境方針が印刷されています。10,000人を超える現地社員は常にこれを携帯し、マブチグループの根本的な環境に対する考え方の理解、実践に努めています。同様の試みは他の関連会社においても実施されています。



環境マネジメントシステム

マブチモーターは1998年、環境基本方針を定めると共に環境管理組織を作りました。マブチグループの環境保全活動に関する方針、目標、施策などは、環境管理統括責任者を委員長とする「環境管理委員会」において審議し決定します。環境管理委員会の下に専門部会を設け、廃棄物、化学物質などの施策立案を行っています。本社では環境管理単位を部とし、各部毎の目標を定め方針の展開を図っています。海外関連会社においては、それぞれの会社ごとに環境管理責任者を任命し、環境保全活動を推進しています。

マブチグループ環境組織図



マブチグループ環境管理
統括責任者
専務取締役 亀井慎二



2000年9月にベトナムで開かれた「第一回環境管理責任者会議」



専門部会活動

マブチグループ I S O 14001 認証取得

1999年12月、マブチモーター本社がISO 14001の認証を取得。その後、海外関係会社も認証取得し、2001年3月のベトナムマブチの取得を持ち、本社及び海外生産拠点のすべてにおいて、認証取得を完了しました。



香港マブチ総経理羽瀧展世が中国 C C E M S の鄭亞南主任から認証書を受領します(中国北京にて)

マブチグループ ISO14001 認証取得状況

関連会社名	認証取得日	認証機関
本社	1999/12/02	DNV(日本)
香港マブチ	2000/12/11	CCEMS(中国)
台湾マブチ	2000/12/06	DNV(台湾)
高雄マブチ	2000/03/14	DNV(台湾)
大連マブチ	2000/08/17	CCEMS(中国)
瓦房店マブチ		
マレーシアマブチ	2000/07/19	DNV(マレーシア)
江蘇マブチ	2000/08/10	CCEMS(中国)
ベトナムマブチ	2001/03/00	DNV(ベトナム)

注：CCEMSは中国の認証機関「中国国家環境保護総局華夏環境マネジメントシステム審核中心」の略語です。



江蘇マブチのISO14001認証書。中国のCCEMSより「中国国家環境保護総局華夏環境マネジメントシステム審核中心」とイギリスの認定機関UKASの認証を受けました。

環境マネジメントシステム監査

審査登録機関（第三者）及び社内の監査部門は、毎年マブチ本社及び関連会社のマネジメントシステムが規格の要求と合致しているか、有効に運営されているかなどについて、環境マネジメント監査を行っています。これらの外部・内部監査により得られた結果を経営者へ報告し、マネジメントシステムの見直しを指示することにより、環境管理レベルの継続的向上を確実に行うよう保証しています。



マブチモーター本社にて実施した内部監査



本社にて、日本DNVにより実施された定期監査



江蘇マブチにてCCEMSにより実施された定期監査

環境配慮型製品・工程への取り組み

マブチモーターは製品や工程を環境配慮型へ転換するため、さまざまな施策を実施しています。地球環境に負荷を与える物質の削減や代替物質への転換は、その取り組みの一環です。

その手法としては、環境負荷の大きいものから、負荷のない代替物質へ転換させます。それが困難な物質は、廃棄物となって最終処分されるまでの過程を可能な限り管理するようにします。

はんだに使用される鉛の廃止

鉛は廃棄物から溶け出して地下水や河川の汚染を引き起こし、人体に取り込まれると成長障害や神経系、代謝系へ悪影響を及ぼします。マブチモーターでは、モーターの中のコミテーターとマグネットワイヤーとの接合、リード線と端子の接合、バリスターの接合等にはんだを使用しています。1999年からはんだの鉛フリー化に取り組んでおり、代替品に、錫 - 銅系、錫 - 銀 - 銅系を選定し、2002年度から全製品の無鉛はんだ化を計画しています。

モーターのはんだ使用箇所例

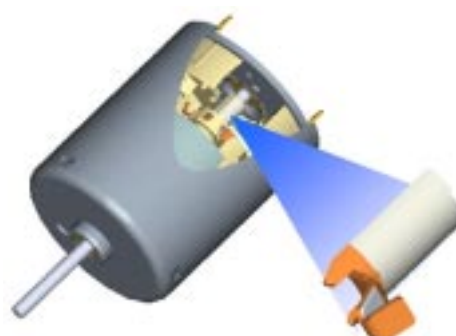


カドミウム使用廃止

モーター整流子の一部に微量のカドミウムが含まれる材料を使用しています。

カドミウムは生態系にとって有害な重金属ですので、その全廃を目標として、推進しています。材料メーカーとタイアップし、2000年末に代替材の開発の選定を完了しました。現在、カドミウム代替材使用製品のお客様承認が進んでいます。2003年末までには、全ての製品でのカドミウムの使用をゼロにする予定です。

カドミウム使用箇所例



トリクロロエチレンの使用廃止

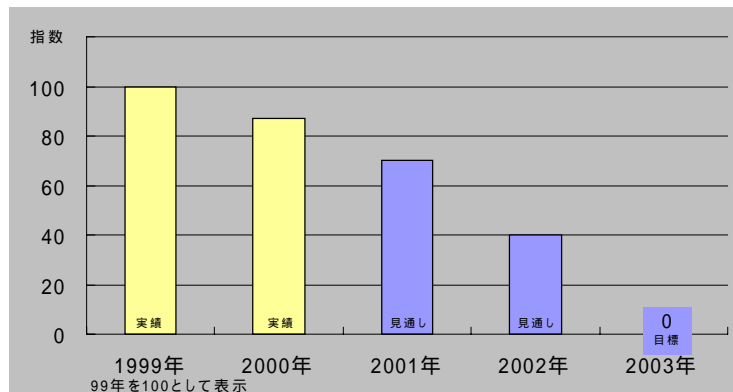
トリクロロエチレンは発癌性の疑いのある物質とされ、取り扱い作業者の健康や、地域の地下水汚染、土壌汚染の対象物質となっています。

2000年5月、マブチモーターは本社でのトリクロロエチレンの使用を全廃しました。マブチグループにおいては、モーターの部品洗浄に一部トリクロロエチレンを使用しておりますが、こちらも2003年年末までに廃止を目指して無洗浄化及び代替品への転換の研究に取り組んでいます。



技術部主催のトリクロロエチレン全廃計画の社内発表会

マブチグループトリクロロエチレン使用廃止計画



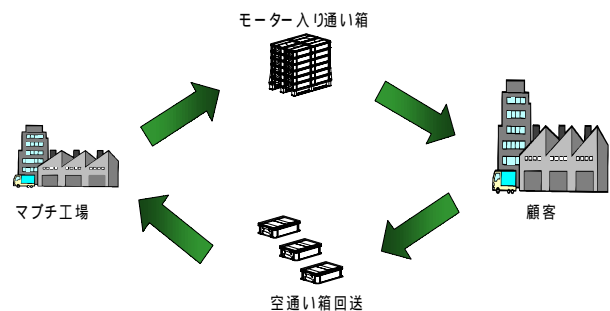
モーター包装材の改良

製品をお客様にお届けするための包装材の環境負荷軽減も重要と考え、一回限りで廃棄される「発泡スチロールトレイ+カートン箱」から、循環使用できる「通い箱」への変更に取り組んでいます。通い箱での納品が困難なお客様に対しては、廃棄後土に返る素材、パルプモールドを使ったトレイにて供給することを検討しています。

2000年にグループ内の香港マブチ(広東工場)、江蘇マブチ、マレーシアマブチでは地域販売分に限り、通い箱での納品、回収体制を確立しました。また、これを基に香港マブチ(広東工場)は、2001年に通い箱を使用して運搬するモーター数量を10%以上にすると目標も挙げて、推進しています。

このような形で包装材に関する環境負荷を削減し、循環型社会の実現に貢献していきます。

マブチモーター通い箱システム



通い箱システム用PET(ポリエチレンテレフタレート)材のトレイ及びPP(ポリプロピレン)材の通い箱

グリーン調達

企業活動における環境配慮は重要な課題であり、マブチモーターは製品に使用される資材の環境負荷低減への取り組みを行っております。

この環境保全活動をさらに推進するため「グリーン調達基準書」を作成し、それに基づく環境保全活動及び納入品に関する調査を行い、環境負荷の少ない資材の調達を推進しています。

グリーン調達システム

「グリーン調達基準書」に基づく、納入企業に対する「環境保全活動調査」及び「納入品調査」の内容は下記の通りです。

「環境保全活動調査」の主な項目

- 1) 納入企業の ISO14001 取得及び準備状況

* 取得及び取得予定が無い場合

- 2) 環境保全に関する方針、目標、組織
- 3) 環境法規制の遵守
- 4) エネルギー、資源の削減
- 5) 化学物質の管理及び廃棄物の管理
- 6) 環境に関する教育・訓練
- 7) 環境情報の伝達
- 8) 環境緊急事態の対応

などの状況について

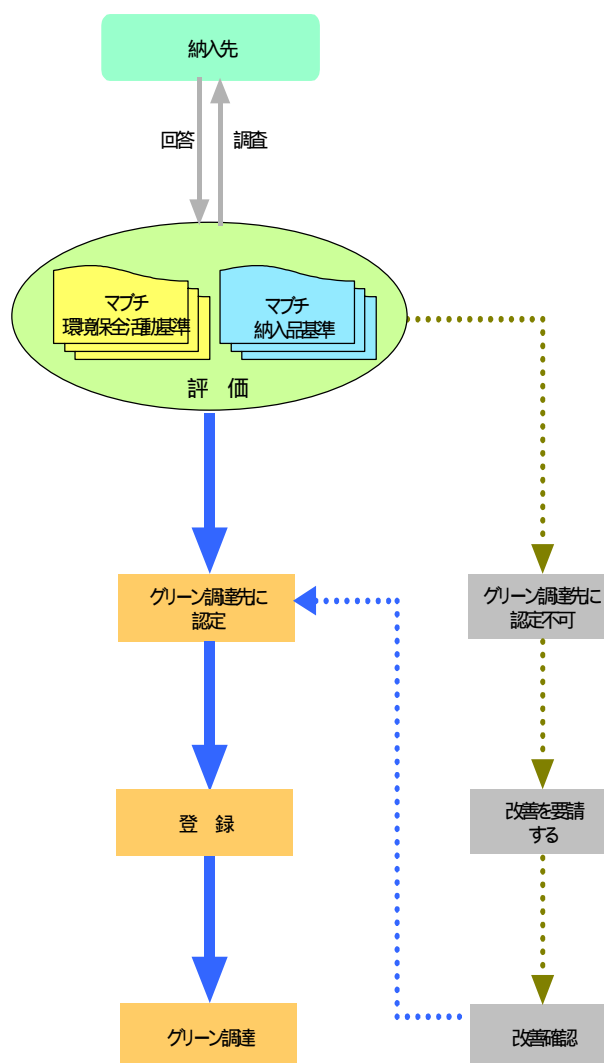
「納入品調査」の主な項目

- 1) 環境法規制の遵守
- 2) 化学物質の含有・削減状況
- 3) 省資源、リサイクルの取り組み
- 4) 包装材の化学物質への対応及び減量化、環境負荷低減化に関する取り組み
- 5) 運輸における環境負荷削減に関する取り組み

などの状況について

2000年度は、年間購入金額の90%を占める上位の企業の中から、上記環境関連の調査実施対象企業を選定し、調査を行いました。

グリーン調達先認定のプロセス



化学物質管理

マブチモーターは化学物質による環境負荷を低減するため、製品または製品製造工程で使用する化学物質について、環境負荷が大きい化学物質を禁止物質及び削減物質に指定し、その使用を限定しています。さらに化学物質の全使用量を管理するシステムを構築中で、2001年稼働を目指しています。

PRTR 制度への対応

PRTR(Pollutant Release and Transfer Register)制度を導入した「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」が1999年7月に制定され、2001年4月より事業者へ化学物質の環境への排出量や廃棄物としての移動量の把握が義務づけられました。わが国でも本格的な取り組みが始まったところです。先に経団連が各業界にPRTR試行の協力要請を行ったことを受けて、電機・電子業界の関

係5団体が共同でこの試行に協力することになりました。

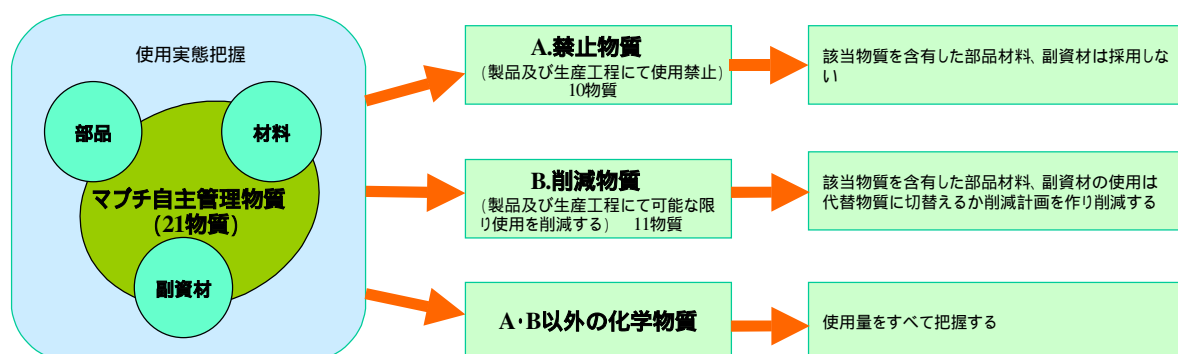
マブチモーターでは、1998年より日本電子情報技術産業協会を通じて、調査報告を行ってききましたが、2000年度は、対象化学物質の取り扱い量が報告義務量以下だったため、報告物質はありませんでした(1トン/年以上)。今後は、さらなる有害物質の削減活動や管理システムの構築に取り組みます。

化学物質の管理

マブチモーターは部品・材料及び生産工程で使用される副資材を対象に、自主的に含有及び使用を規制する化学物質を明らかにし、使

用状況を把握してきました。これを基に環境負荷化学物質の使用禁止や削減などの環境活動を推進しています。

マブチモーターの化学物質管理システム



省エネルギー・省資源の取り組み

21世紀に人類が直面する深刻な問題としてエネルギー、資源の枯渇があげられています。マブチモーターは企業活動において、いかに無駄を省き、限りある資源を効率的に使用するかを検討し、積極的に省エネルギー、省資源に取り組んでいます。

マブチモーター本社電気エネルギー使用量の削減

2000年6月にマブチモーター本社内テクニカルセンターの省エネルギー効果測定を専門会社に依頼したところ、「既に多くの省エネ手法が取りいれられているが、更なる削減は可能」との指摘を得、「蛍光灯の安定器を磁気式から電子式に交換」することにより照明の効率化を図りました。

これにより、照明電力消費量を従来比30%削減することができました。

さらに2001年においては空調用、試験・研究設備用電力の削減にも取り組んでいます。



蛍光灯の安定器交換を行ったテクニカルセンター

蛍光灯の安定器交換がもたらした省電力エネルギー効果

交換数量	削減効果(年間)			
	交換前使用電力	交換後使用電力	削減できる電力使用量	電力使用量削減率
988台	274,000Kwh	190,000Kwh	84,000Kwh	30.5%

(オムロン ファシリテイクリエイツ(株)電力削減検証結果報告書より)

マブチモーター本社OA紙使用量の削減

日本における紙の原料の約50%を木材が占め、そのうち約16%が天然林といわれています。間伐材や製材後の残りを活用することも進んでいますが、やはり紙を消費することは森林の減少につながります。森林の減少は地球温暖化をもたらす重要要因の一つです。

マブチモーター本社では環境目的・目標の一つとしてOA紙使用量の削減を取り上げました。2000年の実績としては、98年使用実績に対して、38%の削減を達成しました。

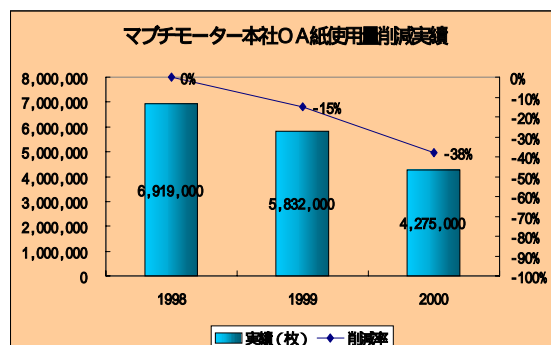


各職場にて裏面再利用できる紙を分別収集、活用

マブチモーター本社

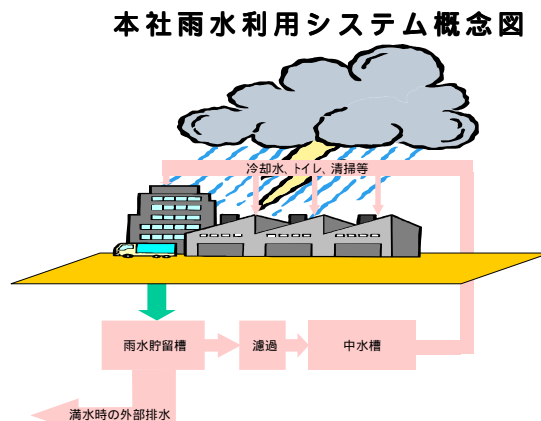
OA紙使用量削減の施策:

- ・ 連絡文書の電子化
- ・ FAX 発信の電子化
- ・ 省紙化印刷(両面、ツーインワン印刷)
- ・ 電子メールの海外拠点展開
- ・ 会議資料の電子化(プロジェクタの利用)



マブチモーター本社の雨水利用（水資源の節約）

水は、生物の命を育み、私たちの生活や産業に不可欠な基本要素です。日本においては水は無限の資源と思われていますが、浄水化する為には多くのエネルギーが使われています。マブチモーター本社は水資源を節約するため、17年前から、雨水利用システムを構築し、運営しています。累計約25万トンの雨水を水道水の代わりに、本社内の空調、生活用水として使っています。



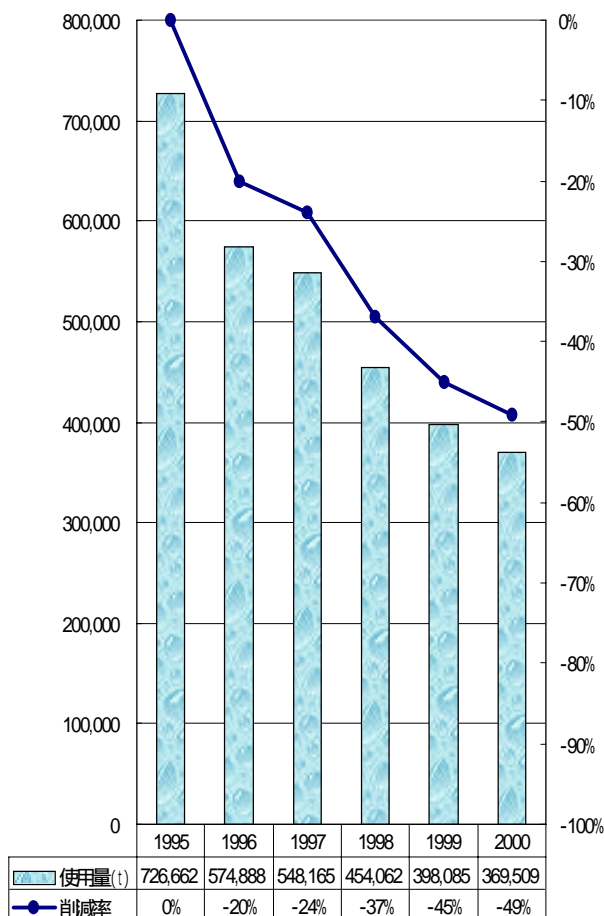
大連マブチの節水運動（水資源の節約）

大連マブチ所在地の中国大連市は中国の渇水地域のため、水資源の使用は特に重要視されています。大連マブチは環境保全項目として、96年から全社での生産、生活用水の節約に取り組んでいます。社内には「節水管理規程」を作成した上、部門ごとに節水管理担当者も任命し、使用量管理を徹底させています。更に用水工程・設備の改良も継続して行っています。2000年度の用水使用量は、95年実績の72万トンの約半分、37万トンまで削減できました。



大連マブチでは、節水のため2000年に従業員寮のすべてのシャワー口を節水型に取り替えました

大連マブチ節水実績
(1995年実績比)

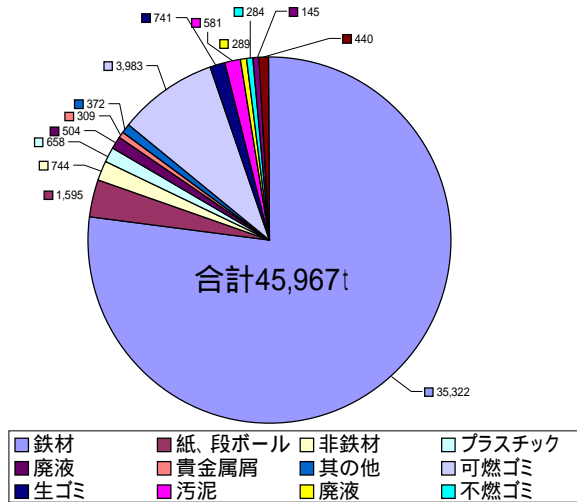


リサイクル・廃棄物減量化

マブチグループの廃棄物発生状況

マブチモーターは「循環型社会」の形成に向けて、ISO14001 環境マネジメントシステムの導入を機に、本社主導型の全グループ廃棄物の管理（減量・適正処理・リサイクル）システムの構築を開始しています。その第一段階として、1999年6月から本社環境管理委員会主導で、本社及びすべての海外生産拠点から出される廃棄物の発生及び処理状況の実態調査を行いました。その調査によってマブチグループの廃棄物年間総量、廃棄物の種類、処理状態などの情報を把握し、マブチグループ全拠点が廃棄物の処理を合法的に処理していることを確認しました。今後、この調査結果を基に、廃棄物管理システムの構築に向けて取り組んで参ります。

マブチグループ2000年度の
廃棄物総量及びその内訳

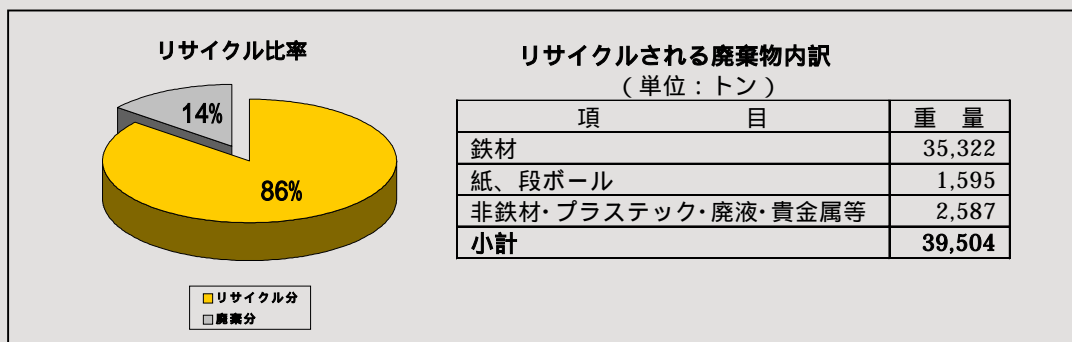


廃棄物のリサイクル

マブチモーターは以前から廃棄物のリサイクルを重視していますが、2000年度の廃棄物リサイクル率は86%（廃棄物総量45,967t、リサイクル総量39,504t）にとどまっています。

マブチグループ2000年度廃棄物リサイクル状況

（廃棄物合計45,967t）



マブチグループにおける最大の生産拠点である香港マブチの廃棄物リサイクル率は、グループ内では最高レベルですが、それでも91%程度です。再利用できる金属類、プラスチック類の回収管理は会社設立当初からシステム化していますが、今後更なるリサイクル率を高めるために、部品再生利用方法を開発しています。



リサイクルされる巻線用プラスチックボビン（香港マブチ）

リサイクルのため鉄屑積み込み（香港マブチ）

廃棄物減量化

マブチモーターは廃棄物のリサイクル率の向上と共に、廃棄物の減量化にも取り組んでいます。

本社の廃棄物減量化

本社では、1999年、2000年度ともに一般廃棄物の減量化を環境目的・目標として取上げました。

施策として、以下の三点を実施しています。

- 廃棄物の分別を徹底し、再資源化率を高め、廃棄量を削減する
- 紙の分類化を進め、再利用を図る
- 厨房生ゴミの再資源化推進により、生ゴミの廃棄量を削減する

これらの施策の実施が効を奏し、1998年度の実績に対して、1999年、2000年度の廃棄物減量化実績はそれぞれ -34%、-44%に達しました。

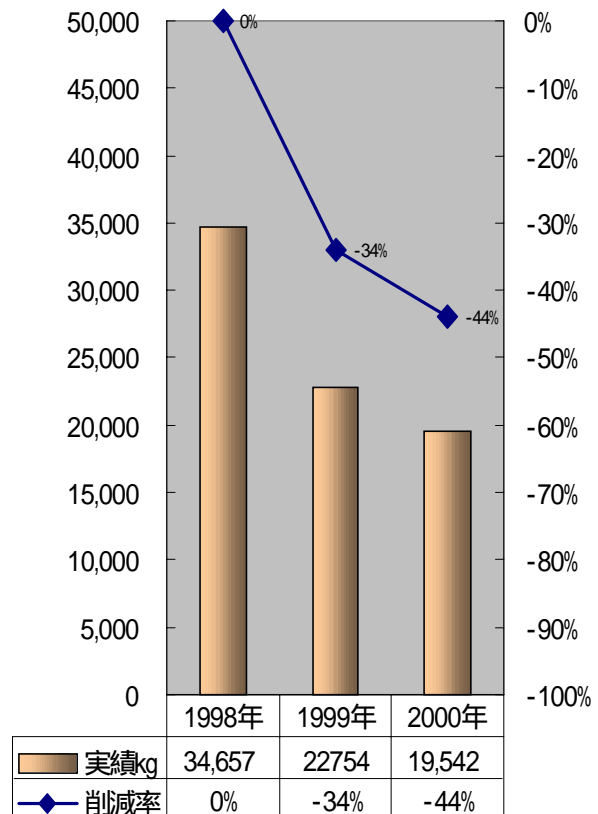


本社内各部署及び廃棄物置き場にカラー写真入り廃棄物分類基準説明板が掲示されています。分別の徹底により廃棄物減量化を促進しています。



廃棄物置き場に重量秤を置き、すべての廃棄物を計量してから廃棄しています。本社全体の廃棄物発生量を把握すると共に社員の環境意識の向上を図っています。

マブチ本社一般廃棄物減量化実績
(98年度比 単位:kg)

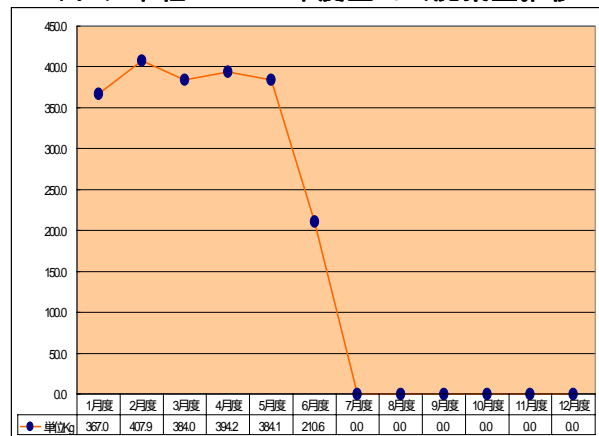


本社の生ゴミ再資源化

社員食堂から出る生ゴミには、いままで異物が混入していたため、焼却処理しか出来ませんでした。

2000年より生ゴミを再利用するため、廃棄する時の分別基準を設け、全社掲示を行い、廃棄物分類トレイを設置しました。分別された生ゴミは専門業者により回収され、肥料の製造原料としています。2000年7月以後、マブチ本社の生ゴミ廃棄量はゼロになっています。

マブチ本社2000年度生ゴミ廃棄量推移



汚染防止

マブチモーター本社及び各関連会社では自主基準を定めて、大気、水質、土壌汚染防止のための管理に努めています。

大気汚染防止

大連マブチの石炭使用対策

大連マブチ（瓦房店マブチを含む）では、工場暖房用として石炭を燃料とするボイラーを使用しています。石炭の燃焼による環境汚染に対して、さまざまな取り組みをしています。

- 1) 石炭燃焼により放出される二酸化硫黄を抑えるため、二酸化硫黄含有量1%以下の石炭を購入するとともに購入基準を設けています。（2000年度実績は二酸化硫黄含有量0.04%の石炭を調達できました）
- 2) 2001年度に中国元165万元（約2,500万円）を投じて、現在使用しているボイラー集塵機を脱硫機能付集塵機に取り替える予定です。この改良工事を実施すると、現在の二酸化硫黄の排出量を70%低減できます。



大連マブチのボイラーに設置されている集塵機

低二酸化硫黄石炭

マブチモーター本社の

アイドリングSTOP運動

自動車から排出されるCO₂（二酸化炭素）は、地球温暖化の一因となっており、その削減が緊急の課題となっています。

このような状況のもと、マブチモーターも環境保護の一環として、2000年7月から、本社構内を運行する社内、社外の車両（エンジンフォークリフト、社員通勤用自家用車含む）を対象にアイドリングSTOP活動を推進しています。



来客及び社員用駐車場の全てに、アイドリングSTOP看板を設置しています



本社構内に入庫する社外車両にアイドリングSTOP依頼カードを渡す

水質汚染防止

マブチモーターが使用する用水のほとんどは生活用水で、生産工程で 사용되는水は極めて少量です。従って排出される排水はそのほとんどが生活廃水です。

瓦房店マブチの下水処理施設

大連マブチの分工場である瓦房店マブチは農村地域に位置し、公共下水処理施設がありません。以前より工場から発生する排水(生活及び工場排水)は、排水処理装置を通し河川に排出してきましたが、処理容量不足となり、2000年に118万元(約1,700万円)を投じ、450 t / 日処理能力を有する最新式污水处理施設に更新しました。この施設の稼働により、瓦房店マブチから発生するすべての排水(年間約151,200 t)を、完全に処理することが出来、処理された水は農業用水として供給することにより、地域の水不足対策に寄与しています。



瓦房店マブチの污水处理施設
年間処理能力約16万t
(中国大連市)

土壌汚染防止

機械オイルによる土壌汚染の防止

海外各関連会社にはプレス工場があり、多数のプレス機が稼働しています。プレス機は稼働中に少量のオイルが床に漏れることがあります。このオイルによる土壌汚染を防止するため、2000年度中に全てのプレス機の下に、強化プラスチックで作ったオイル受け皿を設置しました。

また、抜き屑ビットにも同じ材料で、オイル漏れ浸透防止層を作りました。

このような対策で、プレス工場での機械オイル漏れによる土壌汚染を防止しています。



江蘇マブチに設置してある高速プレス機
(中国江蘇省呉江市)



江蘇マブチ内のオイル浸透防止層付き抜き屑ビット
(中国江蘇省呉江市)

環境教育・訓練

環境保全活動を行うのは従業員一人一人であり、更に全従業員参加が必須要件です。いかに優れた環境方針やシステムが整備されても、それを実行する人たちの環境に関する意識が低ければ、当然のことながら良い結果は得られません。その為、マブチモーターは環境基本方針やISO14001の要求事項を遵守することの重要性、環境改善活動による環境負荷の低減、緊急事態への対応、運用手順から逸脱した際に予測される結果などについての教育・訓練活動を積極的に行うことによって、環境マネジメントシステムの運用効果を上げるようにしています。

環境教育

マブチグループ全従業員の環境に関する自覚、能力の確保を図る為、階層別、目的別の環境教育・訓練システムを構築しています。下図はマブチモーター本社の環境教育・訓練システムのイメージ図です。

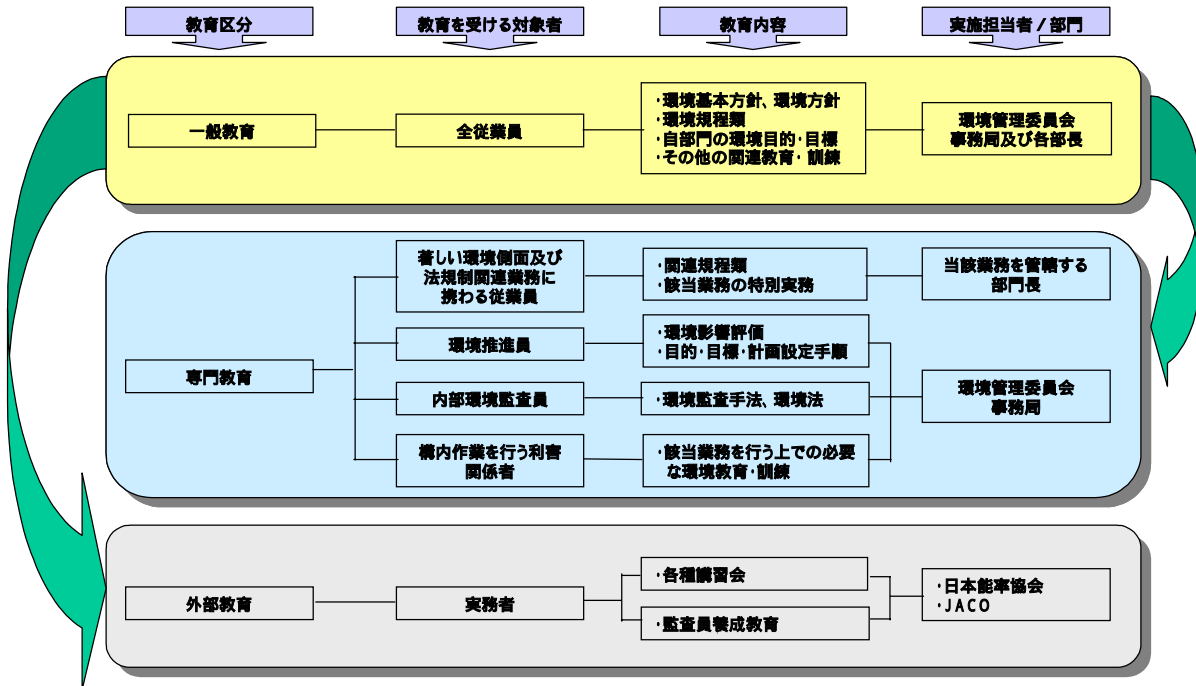
「一般教育」は環境基礎教育として、すべてのマブチモーター社員が受講します。

「専門教育」や「外部教育」はそれぞれ特定の社員を対象に実施するものです。

グループ内の各関連会社においても同じ構成の環境教育・訓練システムが構築され、実施されています。



マブチモーター環境教育システム (本社例)



緊急事態対策模擬訓練

マブチグループで発生が予測されるさまざまな緊急事態について、環境に対する悪影響を最小限に
くい止める為、必要な対応マニュアルを整備すると共に、訓練も定期的の実施しています。

本社における緊急事態対応訓練



石油販売会社と共同で行われた燃料油漏洩緊急事態対応訓練



本社構内に設置してある重油漏洩事故対応
備品倉庫

ベトナムマブチにおける緊急事態対応訓練



トリクロロエチレン漏洩緊急対策訓練 - 1 (ベトナム)



トリクロロエチレン漏洩緊急対策訓練 - 2 (ベトナム)

香港マブチにおける緊急事態対応訓練



防火訓練 (中国広東省東莞市)



油類火災消火訓練 (中国広東省東莞市)

コミュニケーション

マブチモーターは環境基本方針や環境方針を全従業員に周知させるとともに、社外の皆様にも積極的に開示しています。緊急事態時の公的機関への報告・連絡は当然のこと、当社の環境に関わる行動記録や環境パフォーマンスなどの実情も、内外に開示しています。このことが、国際社会の一員として、マブチモーターとすべての利害関係者との信頼関係を一層深めることに繋がると考えるからです。

環境意識向上を図る社内広報活動

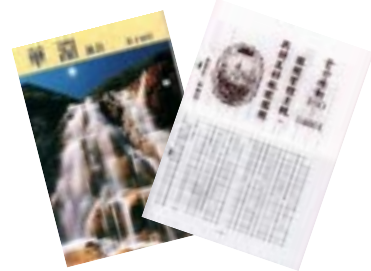
マブチモーター本社及び各関連会社は社内メディアを使用し、多くの環境問題に関する記事を掲載し、グループ全員の環境意識の向上を図っています。



大連マブチ工場社員通路に設置されている環境問題掲示板



本社の社報に掲載された環境関連記事



台湾マブチ社報に掲載された環境関連記事

社会への環境情報発信

マブチモーターはグループの環境理念及び取り組みを社会に紹介するため、1999年に「マブチモーター環境基本方針」の小冊子を発行しました。2000年からは自社ホームページに環境ページを追加し、グループの環境活動情報をタイムリーに社会に発信しています。



マブチモーター環境基本方針解説小冊子



マブチモーターホームページ上の環境ページ

社会貢献・地域活動

マブチモーターは「従業員、顧客、地域住民、地球環境などあらゆる視点から見て有益、かつ世の中に不可欠な企業であり続けなければならない」と考えています。この考えのもと、マブチグループ国内外の各関連会社はそれぞれ地域社会に密着した環境問題の取り組みを行っています。

大連マブチの地域社会貢献活動

植林

大連マブチは中国大連市の植林活動に人員の支援以外に資金援助も含め積極的に参加しています。95年から2000年まで、累計20万中国元(約300万円)の資金を寄贈しました。この活動を通し現在まで中国大連近郊で17万5千本の樹木の植林を行いました。



大連マブチの社員が「大連日中友好桜林」の植林活動に参加(中国大連)

環境美化

大連マブチ社員は会社周辺の清掃や隣接地域の公共緑地の美化運動などに、ボランティアとして参加しています。



大連マブチ周辺の清掃活動



大連マブチより寄贈された市民公園「万宝苑」での清掃及び保守活動(中国大連)

マブチモーター本社周辺の清掃活動

マブチモーター本社は、会社周辺の環境衛生に貢献するため、5年前から週一回会社周辺の掃除を実施しています。



本社周辺の清掃活動 -1



本社周辺の清掃活動 -2

環境データ

マブチグループ環境活動の歩み

- 1993年06月 「経営理念」の具体的な実行を示した、4つの行動指針の一つに「地球環境と人々の健康を犠牲にすることのない企業活動を行う」ことを明文化
- 1994年01月 年次計画に社内廃棄物の減量化、再資源化率目標を設定。継続的数値管理を開始
- 1997年06月 環境問題に関する情報管理部門「環境管理委員会」を、業革推進本部内に設置
- 1998年01月 3Rを基礎とした廃棄物処理管理基準に改訂
- 1998年07月 業革推進本部にISO 14001認証取得プロジェクト(社内略称: E / プロジェクト)を設置。ISO 14001認証取のための事前調査を開始
- 1998年10月 馬淵社長がオールマブチの「環境基本方針」を宣言。E / プロジェクトが環境基本方針に基づいてISO 14001の認証取得活動を開始
- 1999年05月 ISO 14001の要求事項に沿って本社の「環境方針」を制定
- 1999年05月 本社の「環境中期目標」、「環境目的」を発表。「1999年環境目標」を設定
- 1999年06月 本社のEMS（環境マネジメントシステム）が運用開始
- 1999年12月 本社ISO 14001認証取得
- 2000年03月 高雄マブチ（台湾）ISO 14001認証取得
- 2000年07月 マレーシアマブチISO 14001認証取得
- 2000年08 江蘇マブチ（中国）ISO 14001認証取得
- 2000年08月 大連マブチ（中国）ISO 14001認証取得
- 2000年12月 台湾マブチ（台湾）ISO 14001認証取得
- 2000年12月 香港マブチ（香港 中国広東）ISO 14001認証取得
- 2001年03月 ベトナムマブチISO 14001認証取得

1999年度環境活動報告

マブチモーター本社が1999年に行なった環境目標及び実績は以下のとおりでした。

活 動	1999年度目標	1999年度実績
E M S構築	本社ISO14001認証取得 海外生産会社E M S構築支援	本社1999年12月認証取得 海外関係会社7社にE M S指導実施
地球温暖化防止	電力の使用削減 98年比9%削減	98年比9%削減
製品の鉛フリー化	鉛含有材の使用削減 無鉛はんだ選定開始	無鉛はんだ技術上の選定作業開始
化学物質削減	トリクロロエチレンの使用削減 使用量98年比24%削減	使用量 98年比56%削減
	ハロン消火器の切り替え 100%切り替え	1999年10月100%切り替え完了 34本(1.25kg/本)
	フロンガス使用の冷凍庫、冷蔵庫を代替 ガスに切り替え 100%切り替え	1999年11月100%切り替え完了 フロンガスR-502 アイセオン (0.86kg)
廃棄物の削減と リサイクルの推進	カドミウム含有材の使用削減 素材切り替え評価完了	素材切り替え評価100%完了
	廃棄物の減量化 98年比31%削減 生産部材再資源化プロジェクト開始	98年比37%削減 1999年7月プロジェクト活動開始
省資源	O A紙の使用削減 98年比13%削減	使用量98年比21%削減

2000年度環境活動報告

マブチモーター本社が2000年に行なった環境目標及び実績は以下のとおりでした。

活 動	2000年度目標	2000年度実績
E M S構築	海外関連会社ISO14001認証取得 6社/7社中	ISO14001認証取得完了 海外関連会社6社/7社中
地球温暖化防止	電力の使用削減 98年比9%削減	98年比9%削減
製品の鉛フリー化	鉛含有材の使用削減 無鉛はんだ評価完了	無鉛はんだ技術上の選定作業完了 量産開始準備完了
化学物質削減	トリクロロエチレンの使用削減 本社使用全廃	本社使用全廃(2000年6月)
	カドミウム含有材の使用削減 客先承認データ作成完了	客先承認データ作成完了 一部量産切り替え開始
廃棄物の削減と リサイクルの推進	廃棄物の減量化 98年比42%削減 生産部材再資源化プロジェクト開始	98年比44%削減 再資源化プロジェクト 部品リサイクル中間報告書発表
省資源	O A紙の使用削減 98年比20%削減	使用量98年比38%削減



マブチモーター株式会社

お問い合わせ先

総務部環境安全グループ

〒270-2280 千葉県松戸市松飛台 430 番地

TEL : 047-384-9626 FAX : 047-389-5299

E-mail : ish4829k@mabuchi-motor.co.jp

マブチモーターホームページURL

<http://www.mabuchi-motor.co.jp>